Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

太陽のイメージ(5)
——子どもにとっての朝——

津守房江

はじめに 子どもが太陽につりて抱く生き生きとしたイメージをとらえようとしてはじめた研究の第5報である。今回は夜から昼への転換の時としての朝が子どもにとってどんな時なのかを見たいと思った。方法は私の家庭での長期にわたる子どもの生活記録と絵の継続記録を中心に、乳幼児グループ(婦人の友)の発達報告6年間分の中から朝に関する記録を取り出し資料集を作った。この報告はそれらに考察を加えたものの一部である。

楽しみ待たれる時・朝 夜床にはいる時「あした」という未来がおぼろげに子どもの中にはいって来ている。夜寝に行く時大切なスリッパを部屋の外にぬりで「また火曜日になったらはきましょうね。」(いつでも火曜か土曜)(2;8女)という。朝起きると「ママあしたになってきたよ」(3;0男)「ママ朝が起きてるよ」(3;9)という言葉に朝が期待に満ちた時であることを知る。「いま朝ね。ほら太陽がまぶしいでしょ。チャチャン遊びましょ」といってる(3;0)今日の日をたのしみ迎え、陽光さえも自分に誘いかけてくれるものと感ずる。

昨日と今日のつながり 子どもが夜遊びかけの玩具を「このまゝにしとゝてね」と言い起きるとすぐ遊びはじめる記録は多くある。着せかえ人形で遊んだ後、床に入った子どもがしばらくして「あたし悲しくなっちゃった。何にもないのに」と言い、お祈りして眠るが、翌朝は何事も無かったかのように、昨夜の人形で遊び始める。昨日の活動の時と今日の活動とがつながっているのを見る。その間にある一人で床の中でいわれのない悲しみを味わったり、考えたりした後に眠った夜の世界はどこかに行ってしまったかに見える。見えないものは「ネンネ」という表現で代用している(2;2女)子どもの記録もある。

子どもの出会う朝の新しさ 消えてしまったかに見える夜の眠りの世界は、子どもの出会う朝の新しさによってその意味を示している。母親たちの発達報告の中に「或る朝突然——」というものが見られる。例えば、昨日までたゞふとんの上でピョンピョンするだけだったのが、朝起きたら立っていた(0;9男)　朝起きて突然「ジブンデスル」と便器によじのぼって、おしっこをし、それ以来すっかり出来るようになった。(1;10)　一人で早く起きてクレヨンで何かかいていた、ママの顔と言って目鼻口があり、はじめてのことでビックリした(3;0)母親が突然ととらえ驚くこの朝は子どもにとっても新しい朝であったと思う。また母かいけた花が翌朝パッと開いたのを見て「ママは魔法使い?」ときく(3;2男)朝開いた花に出会う新鮮な驚きであろう。

外へ向って 床の中で目を覚ました子どもは小さい時からおしゃべりをたのしむことが見られる。朝早く外に向って娘ごしに友だちと呼び合う子ども(2;1男)「オーイ、ヒロシクン、ヤッホー、コンニチワ、オハヨー、イラッシヤイ、マイドアリガトウ」等、朝の言葉は外へ向って呼びかけが多い。また目を覚ますなり"オンモイコ"と言い(1;11)外の散歩をたのしむ記録の数は非常に多い。その散歩もきまったコースがあったり、石をひろったり、猫に挨拶したり、子どもの世界が外に向ってひろがっていく時である。前回タオが外から内へと向うことを見たが朝は内から外への時と言える。

朝のぐずりと、外へひろがる世界 Yの生活記録の中でYは朝ぐずることが度々出てくる。年の近い兄姉の多いYは夜と昼との間の時を持つやとりもなく、朝突然起きることになったりする(1;0)目覚めて間もなく外へ向う姉に対するうらやましさ(2;1)着替えないといって泣き(3;1)雨戸を開けないでと泣く(3;9)　Yにとって朝は直ちに昼と出会わなければならない時である。Yは昼間姉たちやその友だちと遊ぶが自分だけの友だちはない。無声音で一人ごとを言い、兄や姉をうらやむことが多い。5才過ぎ、窓から外を見て「おとなりのうちはいゝな。お屋根におひさまが光っていて」と言う。母と手をつないで外を歩きYの家の屋根にもおひさまが光り猫が気持よく寝ているのを見る。このあと女の子と家と屋根の上の猫の絵をかく(スライド)しばらくして母がこのことをおはなしにしてノートに書きとめてYと姉に話す。Yは「あたしさしえかいてあげる」とおどるようなねこと女の子とおひさまの絵をかく。もう朝ぐずることもなくなり、小学校入学前後の充実した日々があり自分の外の世界を持つ。この後も継続記録の中に母の子と家と猫と太陽のテーマが時々出てくる。Yにとって朝の体験がこの中に生きていることを見る。

NII-Electronic Library Service